

東京から移住し入部 ■ 野球経験生かしサポート



手作りのお守りを手にアインヘールを送る。八学光星マネジャーの(左から)藤澤さん、吉村さん、上山さん。2月下旬、八戸市

第98回選抜高校野球大会(センバツ、甲子園球場「兵庫県西宮市」)の初戦を19日に控えた八戸学院光星高校には、選手たちを支える3人の女子マネジャーがいる。3年の吉村心花さん(17)「東京都江東区出身」と、ともに2年の藤澤美由さん(16)「岩手県洋野町、上山彩可さん(16)「八戸市」だ。3人は大舞台に立つ選手たちへ「ミスを恐れずに楽しんでプレーしてほしい」とエールを送る。(東方好孝) 【17面参照】

光星マネジャー「きつと勝つ」

センバツ きょう初戦「楽しんで」

甲子園で躍動する八学光星アインを見てマネジャーに憧れた吉村さんは、中学生の頃に2023年夏の県大会決勝を現地で観戦。八学光星が優勝を決めた数日後には、八戸市美保野の同校グラウンドへ足を運びマネジャーの仕事体験した。「絶対に光星でマネジャーをやりたい」との思いをさらに強め、進学を決意。生活拠点を母と同市へ移し、選手たちのサポートに全力投球している。

藤澤さんと上山さんともに野球経験者。藤澤さんは地元の洋野リトルシニアでプレーしていたが、けがが重なりマネジャーに転身。進学先の高校でもマネジャーを続けようと、八学光星を選んだ。上山さんは自宅から近い同校の野球に「かっこいい」と憧れを抱き、マネジャーとして入部した。

試合でのアオウンスやスコア記入といった業務は多岐にわたる。力仕事など大変なことも多い。それでも3人は「選手からの『ありがとう』の言葉で何でも頑張れる」と声をそろえる。

バレンタインデーの2月14日の練習終わり。3人は選手一人一人にチョココレ

ト菓子「キットカット」をモチーフにしたお守りを手渡した。昨年12月から2カ

月かけて1人当たり約30個を制作。「キットカット」を「と」に置き換えたフェルトを縫い合わせたほか、かばんに取り付ける金具部分には「光星」をイメージした星形の飾りをつけ、勝利への思いを込めた。

大会期間中は吉村さんがベンチに入り、藤澤さんと上山さんがスタンドから見守る予定。昨秋の東北大会でもベンチから一人一役大きな役割を担った吉村さんは「夢舞台は緊張すると思うけど、肩の力を抜いて頑張る。全国制覇を目指してほしい」と期待した。